

技能実習生への日本語教育実践 全3回 ワークショップ

日時 4/7 (土) 4/14 (土) 4/21 (土) 13:30~15:30

場所 早稲田大学 (19号館予定)
新宿区西早稲田1-21-1早大西早稲田ビル

講師 早稲田大学大学院日本語教育研究科 教授 宮崎 里司
早稲田大学日本語教育研究センター 非常勤インストラクター 中野 玲子
早稲田大学日本語教育研究センター 非常勤インストラクター 上田 潤子

外国人技能実習生度は、2017年度には75職種（135作業）に達し、毎年多くの実習生が入国しています。実習生への日本語教育においては、渡日前と来日後のアーティキュレーション、日本語教師と実習先企業のアーティキュレーション、生活者としての視点など、課題が山積しています。

本ワークショップでは、技能実習生向け日本語教育について、製造業や介護の技能実習生を例に、アカデミック・ジャパニーズとは、どのように異なるのかを、実践例を紹介するとともに、カリキュラム、教材、評価、さらには、こうした実習生を教える場合、日本語教師が備えるべき資質などについて、専門分野別日本語教育の観点から、一緒に考えていきます。

1回目

技能実習制度を概観し、渡日前と入国後の日本語講習におけるアーティキュレーション（連続・整合性）、および日本語教師と実習先のアーティキュレーションについて問題点と解決策を検討する。

2回目

主に介護の技能実習生向け日本語教育の中でも、日本語学習と現場での実習の連動について考察し、日本語教師と介護職との協働を目指したシラバスを立案する。

3回目

主に製造業に就労する技能実習生向け日本語教育について考察し、授業内で実施するタスクを考える。

このワークショップは、専門分野の日本語教育として、現在需要が高まっている技能実習制度で来日する実習生に対する日本語教育実践を紹介します。

具体的には、制度設計や、カリキュラムのデザイン、教科書、教材の紹介、さらには、ワセダバンドスケール（介護版）と言う、早稲田で新たに開発された介護分野の日本語能力診断ツールを使った日本語診断の使い方も説明していきます。

お問合せ先

早稲田大学大学院日本語教育研究科
gsjal@list.waseda.jp TEL:03-5286-2750